

NPO/NGO アジア キッズ ケアだより

住所：〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原 1054 - 7 発行者：代表 喜安美紀 発行日：2010.3.25(通巻第5号)
HP：<http://www12.plala.or.jp/asian-kids-care/> E-mail：kids@zpost.plala.or.jp 設立：2004.2.11
TEL：090-5912-4515 FAX：089-985-0389 郵便振替口座番号：01600-5-13009 口座名義：アジア キッズ ケア

全国の支援者の皆様の支援活動へのご協力を感謝しつつ、会報第5号をお届けします。たくさんの方々からノートや筆記具等の学用品、ピアノ等の楽器、衣類などの支援物資を届けていただき、また、孤児たちの生活・教育をサポートする里親支援活動へのご参加をありがとうございます。海外からの留学生も継続して活動に協力してくださり、一緒に小学校等を訪問するなどして活動紹介や交流の輪が広がっていることを心から感謝します。

2010.3.25

アジア キッズ ケア代表 喜安 美紀

支援物資(衣類、文具、楽器、日用品等)の発送

- ・2009. 4 インド：チェンナイ(7)
- ・2009. 5 ザンビア：カフィー(4)
- ・2009. 6 インド：ケララ、カシミール(6)
- ・2009. 7 マリ：カティ(7)
- ・2009. 8 カンボジア：カンポト、コンボンチャナング(4)、インド：チェンナイ(4)
- ・2009. 9 インド：アラハバット(2)、マラウィ：リロングウェ(4)
- ・2009.10 ガーナ：アクラ(4)、韓国：羅州市(2)
- ・2009.11 ザンビア：カフィー(2)、インド：ケララ、カシミール(4)
- ・2009.12 マリ：カティ(7)
- ・2010. 1 インド：アラハバット(4)
- ・2010. 2 マラウィ：リロングウェ(6)
- ・2010. 3 ガーナ：アクラ(5)

支援物資の送付実績 371箱 送料経費総額 2,148,775円(2010.2現在)

さくら小学校を訪問：留学生とともに支援活動の紹介&交流

松山市立さくら小学校からの要請により、2月にアジアキッズケアの主宰(喜安：左から二番目の写真)と当方の支援活動に参加している留学生6名(マリ、マラウィ、ガーナ、フィリピン)とで訪問し、6年生の児童に対して、アジアキッズケアの子ども支援活動の紹介、留学生による母国紹介、子どもたちとの交流の時間をもちました。

6年生は、真剣なまなざしで話を聞き、外国の困難な状況にある子どもたちを理解しようとしていました。そして、友達に呼びかけて収集した文房具、衣服、楽器等や手紙を贈呈してくれました。毎年、さくら小学校の皆さんが、同世代の子どもたちに対して、心のかもった支援物資を提供して下さることを心から感謝します。

また、アジアキッズケアでは、毎月の荷造りボランティアと支援物資の発送、インド・マラウィ・カンボジア・マリなどの孤児里親支援を現地協力者と連携しながら継続して行っています。こうした活動の中では、「支援活動は、リーダーとなる現地の方々为主体となり、ビジョンを共有し、一緒に継続して前進する」ことが大切であり、特に、生活の基盤の安定と共に、「教育」が就労・自立へのキーワードになると考えています。

私たちは、留学生とこの思いを共有し、「日本において、一緒に支援活動に取り組み、支援活動のリーダーとして育成したうえで、現地に送り出す」ことを実践しています。この3月末には、ガーナのアベナさんが帰国しますが、彼女は現地における支援活動の強力な推進者として活躍して下さることでしょう。



アジアキッズケアの主宰者及び団体発足の経緯の紹介

支援者の皆様から、主宰者の人と顔が見えるようにして欲しい、団体発足の経緯なども紹介して欲しいという声が寄せられていますので、少し紹介をさせていただきます。

アジアキッズケア(代表：喜安美紀、事務局：喜安勝也)は、私ども夫婦が主体となって立ち上げ、2004.2.11より活動を開始しました。事務局の私は、現在52才で、22年間教員をし、教育委員会で6年間教育行政に携わっております。代表の家内は、48才で、父母の介護とともに主婦をしており、子ども5人の9人家族です。

団体発足の契機は、2つの出来事がきっかけとなりました。私たち夫婦は、6人の子どもがいたのですが、2003.2.9に五女を亡くしました。その後、「子どものいのちを守る」働きをしたいと思うようになりましたが、具体的に何をしたらいいかが分かりませんでした。しばらくして、ニューヨーク・ブルックリンで子ども支援をしているビル牧師の話が京都で聴く機会を得ました。彼は、母親に捨てられた孤児でした。

彼は、「子どもたちは、獅子にかまれようとしている羊です。それを見た時、私たちは、黙って見過ごすか、助けに行くかの二つの選択肢しかありません。あなたはどちらを選択しますか。今までと同じことをしては、何も変わりません。具体的な行動に移し、一歩踏み出しませんか。」と話されました。

スラム街で、毎週2万人を超える貧困の子どもたちをサポートし、自身が被弾しても、ギャングに殴られ失明の危機に陥っても孤児支援を続ける彼の姿に、その足元にも及びませんが、私ども夫婦でできる子ども支援をしたいと思い、その日、子ども支援活動をスタートしようと決心しました。

そして、事務所兼倉庫を建て、団体を立ち上げたのですが、当初はノウハウもなく、途方に暮れる場面もありましたが、不思議に様々な協力者を得て前進することができました。埼玉の同様の活動をしている団体で勉強させてもらったり、教会の牧師先生から海外の孤児院を運営している牧師先生を紹介してもらったり、HPを無償で作成してもらったり、支援者の方々とともに歩む中、活動は徐々に広がり6年が経過しようとしています。

アジアキッズケアの働きは、この娘がその命に代えて私たちに与え託した大切なものだと思っています。

私たちの活動は、大きな砂浜にコップ1杯の水を注ぐような支援活動ではありますが、一人の孤児のために立ち上がり、留学生や現地協力者とともに一人の支援者が一人の孤児を確実に支援することを通して、さらに前進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお祈りします。

マラウィ孤児院建設のためのマラウィアイテムの販売

マラウィ支援は、愛媛大学大学院に2年間留学し、その間当方の支援活動に参加し、帰国後もマラウィ政府職員として勤務しながら、孤児の支援活動に献身的に取り組んでいる現地協力者モーゼス氏が主体となっています。

私たちがサポートしているマラウィ孤児は、全員が両親を病気(エイズ等)で失っています。マラウィでは、基盤となる生活支援とともに、学校教育の継続が大きな課題となっています。なぜなら、孤児の多くが、学校教育からドロップ・アウトしている現状があるからです。モーゼス氏は、現地支援団体VEMのリーダーでもあり、孤児の生活・教育に必要なアイテムの提供とともに、「学校教育」のケア・サポートを丁寧に取り組んでいます。私たちは、孤児たちの学校教育の推進が、将来の就職、そして自立につながると考えて実践しています。しかし、教育の重要性に対する認識不足や生活習慣の違いなど、厳しい現実の壁があることも事実です。

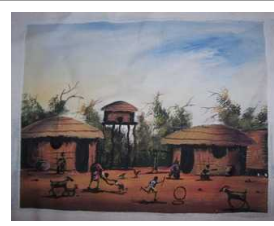
こうした中、これらの改善と環境整備を図っていくための手立てとして、モーゼス氏とともに孤児院の建設を計画しています。孤児院建設の目的は、孤児支援のセンター的役割を担うためのハード面の施設整備とともに、支援活動のリーダーとなる人材の育成等のソフト面での役割の両方を担うものです。加えて、この孤児院建設が最終目標ではなく、今後の活動拠点として孤児支援の充実を図ることを目標として捉えています。

アジアキッズケアでは、こうしたビジョンに基づいて、マラウィの孤児支援の拠点となる孤児院建設を進めるため、下記のマラウィアイテム販売や寄付を中心とした資金協力を行いますので、ご協力をお願いします。

<マラウィアイテムの販売> ご注文は、アジアキッズケアHPの申込フォームよりお願いします。



手彫り木製動か物ペン(1200円)



手描き布製壁掛け(1500円)



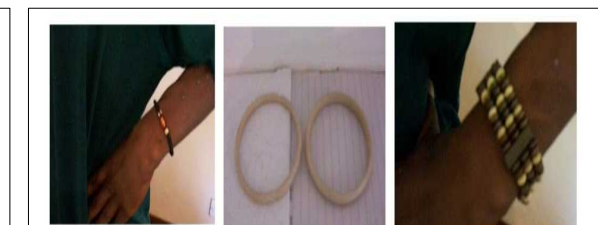
手づくりアフリカン・ネックレス(上:850円)
原産地マテリアル・ネックレス(下:1000円)



手彫り木製キーホルダー(850円)



手描きマラウィ湖ポストカード(750円)



手づくり原産地マテリアル・ブレスレット(左850円、中750円、右1000円)